

## 恐竜時代の謎の巨大カキ・コンボウガキの世界最大の礁の発見

### ポイント

- ①コンボウガキが形成したものとしては世界最大のカキ礁をいわき市で発見した。
- ②今後、福島県立博物館、徳島県子ども科学館などの共同研究グループで多角的に研究を行う。
- ③7月に行われた日本古生物学会 2021 年年会で発表しており、早期に論文の公表を目指す。

### 概要

#### (1) 発見した種類

コンボウガキ (学名 *Konbostrea konbo* Hayasaka and Hayasaka, 1956)

ロシアのサハリンから日本の東北地方にかけての白亜紀の地層から産出するカキの仲間。著しく伸びた形態を持ち、大きなものは1メートル程度のサイズに成長する。海底面に垂直に立って生きていたという説があるものの、その生態については謎も多い。

#### (2) 発見した地層とその年代

双葉層群玉山層小久川部層 中生代白亜紀コニアシアン期 (約 8980~8630 万年前)

#### (3) 発見場所

福島県いわき市久之浜町内

#### (4) 共同研究グループ

猪瀬弘瑛 (福島県立博物館)・久保貴志 (徳島県子ども科学館)・望月貴史 (岩手県立博物館)  
・安里開士 (福井県立恐竜博物館)・菜花智 (いわき市石炭・化石館)・いわき自然史研究会

#### (5) 発見の意義と展望

地権者の許可を得て、共同研究グループで地質調査をしていたところ、2019年に36m×15m×0.6mにわたるコンボウガキ化石の密集部を発見した。調査の結果、このコンボウガキの密集部は群生していた当時の状態 (= 礁) をかなり保存しており、従来の研究と比較して本種が形成したものとしては世界最大の礁であることが明らかになった。共同研究グループでは、7月に開催された日本古生物学会 2021 年年会でこのコンボウガキの密集部について報告し、論文としての公表準備を進めている。



発見したコンボウガキ化石のひとつ

5 cm

お問い合わせ先：福島県立博物館 学芸課 猪瀬弘瑛

Tel : 0242-28-6000 Fax : 0242-28-5986 E-mail : general-museum@fcs.ed.jp